

今年で25周年

新作大型立佞武多は「素戔鳴尊」に決定！

11月24日、令和5年度新作大型立佞武多の下絵発表が行われました。

題名は「素戔鳴尊（すさのおのみこと）」。日本神話では八岐大蛇（やまたのおろち）を退治した有名な神で、厄除け、水難除け、病難除け、火難除けなど多くの御利益があるとされています。

当市は、過去に起きた大火や水害など多くの困難を乗り越えてきましたが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、昨年8月の大雨など異常気象による災害が頻発するなか「これ以上厄災が振りかからないように」という願いを込めて、素戔鳴尊が八岐大蛇を退治する場面を表現しています。

制作者の鶴谷昭法技能技師は「大蛇の頭がいくつもある点が今までにない特徴で、自分にとっての挑戦でもある。素戔鳴尊の荒々しさを表現したい」と意気込みを話しました。

佐々木市長は「25周年という節目を迎える記念すべき制作になる。ぜひ楽しみにしてもらいたい」と話しました。



下絵の説明をする鶴谷技能技師

新作大型立佞武多「素戔鳴尊」の下絵

市長からの
お知らせ

お悔やみメッセージをお渡しします

これまで、市長からご遺族の希望に応じてお悔やみ電報をお送りしていましたが、「お亡くなりになられたすべての市民の方に弔意を表したい」との市長の思いにより、12月29日より電報に代えて、窓口等での手続きの際に、市長からのお悔やみのメッセージをお渡しすることとしました。何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

問い合わせ先…市民課 内線2312

今月号の表紙

今月号の表紙は、株式会社津軽金山焼で制作された令和5年の干支「卯」にちなんだウサギの置き物です。卯（ウサギ）は、その穏やかな性格から「家内安全」や、飛び跳ねる姿から「飛躍」を象徴するものとされています。

〔飛躍の年に！津軽金山焼「卯」の置き物〕

同社の野村美里さんは「工房では、皆さんの飛躍を願いながら心を込めて作りました。窯の中に置く場所で一つ一つ色合いが異なるので、好みのものを見つけてもらえれば」と笑顔で話しました。